



今津町の歩み

今津は河内国にあった今津寺が、現在の地名の基になったのではないかと伝えられており、江戸時代には屋形船が航行する姿がさかんに見られ、屋形船の乗客と川の堤防を歩く村人との間で「ぞめき」と言われるからかいあいをする事が有名で、落語「野崎まいり」のテーマにもなった事があります。昔の今津は町内相撲が盛んな土地柄で、だんじりを曳行する若衆はまわしを締めていたそうです。

現在は大阪市の最東部の鶴見区の南東に位置し、昔ながらの古風な面影を残しつつも若者が活動しやすい都会の街へと進歩し続けております。